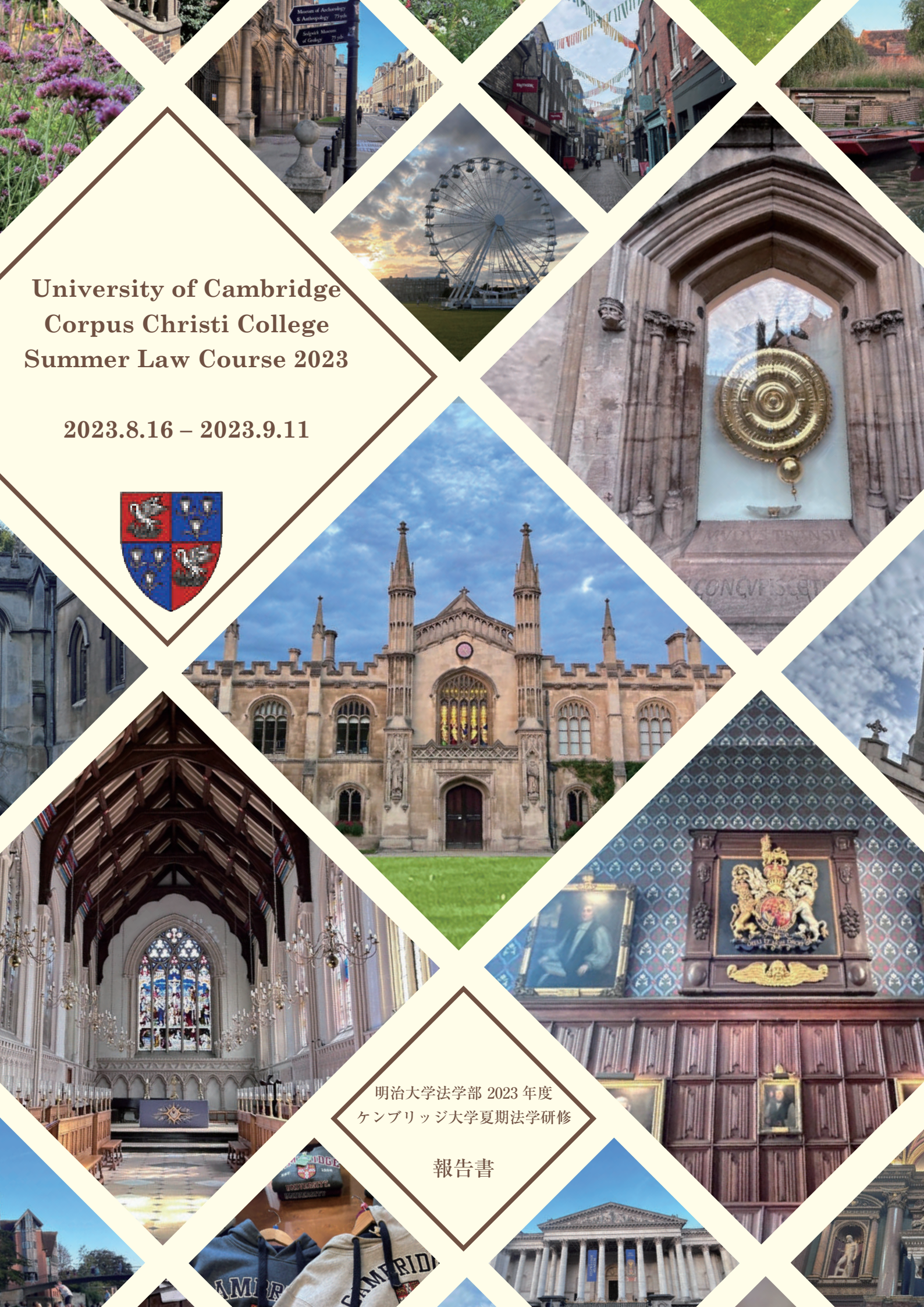


University of Cambridge
Corpus Christi College
Summer Law Course 2023

2023.8.16 – 2023.9.11

明治大学法学部 2023 年度
ケンブリッジ大学夏期法学研修

報告書

目次

教員あいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
スケジュール　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
ケンブリッジ大学について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
コーパス・クリスティ・カレッジについて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
大学周辺情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6～7

Weekend travel diary【8～14】
・London I （週末旅行）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
・London II （週末旅行）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
・Brighton（ブライトン）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
・Edinburgh（エジンバラ）　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
・Cotswolds（コッツウォルズ）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
・Stonehenge ＆ Bath（ストーンヘンジ ＆ バース）　・・・・・・・・・・・・・・13
・Canterbury（カンタベリー）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

Photo　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

School Life【16～32】
・PA（Program Assistant）紹介　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
・Scavenger Hunt　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
・London trip　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
・授業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19～25
・Mock Trial（模擬裁判）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
・Court Visit（裁判所見学）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
・Formal Dinner　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
・寮について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
・ケンブリッジでの１日（Weekday）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
・ケンブリッジでの１日（Day off）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
・PA アクティビティ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

Information【33～35】
・参加者お勧めのレストラン　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
・お土産情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
・交通機関について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

トラブル　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
ＰＡメッセージ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
担当教員からのメッセージ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
次年度の参加者に向けて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
実施概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

国際的視野を広げよう！

法学部長　上野　正雄

法学部では、学部生を対象に、2010 年度から夏休みを利用し、ケンブリッジ大学で夏期法学研修を行っています。

この研修では、イギリス法や EU 法に関する授業を現地の教員から受け、日本の法制度とは異なった外国法を学びます。法律に関する授業の理解を助けるために、実務家等によるゲストレクチャーやケンブリッジ大学の現役の法学部生との議論の機会も多く設けられています。さらに、授業の理解を助けるために、少人数での法律英語の授業も行われます。日本法以外の法を学ぶことにより、世界における法の多様性を理解し、法律学の奥深さに興味を誘発されることと思います。そのような多様な法の一つとして日本法についても客観的に学ぶ姿勢が培われることが期待されます。

本プログラムでは、ケンブリッジに滞在中は、現地の学生と同じように学生寮に居住し、プログラムアシスタントを務める現地の法学部生と交流することができます。

また、研修内容をより充実したものにするために、1 年次より、研修前に留学基礎講座 A・B・C 等を履修し、研修後に研修で培ったイギリス法や法律英語の知識をさらに高めるために、英語で授業が行われる専門法律科目の履修を推奨しています。皆さんの将来の進路につなげるためにも、研修後も本学での英語による法学の授業を受講して欲しいと思います。

より多くの皆さんが積極的にケンブリッジ大学における夏期法学研修を受けることにより、グローバルな視点を培って将来に役立てることを期待しています。

新たな自分を発見しよう！

法学部専任教授　佐藤　智恵

この報告書は、2023 年度ケンブリッジ大学夏期法学研修に参加した明治大学法学部の皆さんが協力して作成した報告書です。COVID-19 対策にも配慮しながら学んだイギリス法・EU 法、国際法、環境法等の法律の授業の様子だけでなく、ロンドンへのフィールドトリップや伝統と歴史を体現するかのようなカレッジでの寮生活を含めた貴重な体験がコンパクトにまとめられています。

研修に参加する前は、ケンブリッジへ行くことを楽しみにしつつ、約 1 か月の海外生活に対する不安や英語能力への不安も感じていたことと思います。しかし、寮での集団生活や授業でのグループワーク、プログラムアシスタント（ケンブリッジ大学の法学部生）との授業内容に関する議論や自由時間での交流等、普段の学生生活では体験することができない経験を通じて、難しそうと思ったことにチャレンジできる自分自身に気づいたり、新たな関心事を発見したり、視野が広がったことと思います。さらに、研修を終える頃には、人と助けあうこと、自分とは違うもの（人、文化、習慣等）を理解しようとすることの大切さにも気づいたと思います。

国際化・多様化が進む現代において重要なことは、自分とは違うものを知り、理解しようとする気持ちではないでしょうか。若い時期に、言葉も文化も生活習慣も違う環境の中で皆さんが得たものは、卒業後の皆さんの人生にも大きな影響を与えると思います。皆さんのますますの飛躍を期待しています。

はじめに

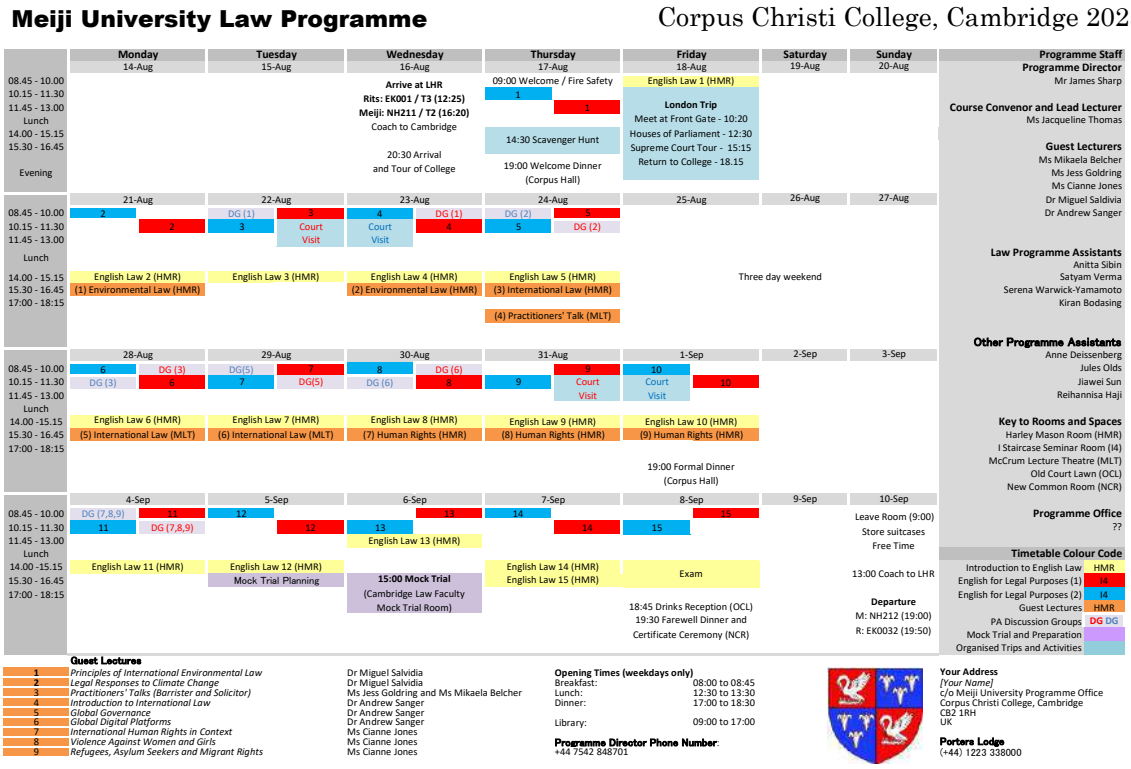
こんにちは！私たちは 2023 年度のケンブリッジ大学夏期法学研修の参加者です。

このケンブリッジ夏期法学研修は、明治大学などの法学部生を対象に、2010 年度から夏休みを利用し、ケンブリッジ大学で行われている研修です。私たちは、現地での寮生活や授業でのグループワーク、プログラムアシスタント（ケンブリッジ大学の法学部生、通称 PA）との交流など、普段の学生生活では取り組むことができないような体験を通じて、成長することができました。

「何か刺激的なことを大学生のうちに経験しておきたい！」「英語を使って勉強をしてみたい！」「海外のトップの大学がどのようなものか気になる！」といった方たちにとって、この報告書が、一歩前へ踏み出すきっかけになれば幸いです。



スケジュール



Meiji University Law Programme Corpus Christi College, Cambridge 2023

	Monday 14-Aug	Tuesday 15-Aug	Wednesday 16-Aug	Thursday 17-Aug	Friday 18-Aug	Saturday 19-Aug	Sunday 20-Aug
08.45 - 10.00 10.15 - 11.30 11.45 - 13.00 Lunch 14.00 - 15.15 15.30 - 16.45 Evening			**Arrive at LHR** **Rits: EK001 / T3 (12:25)** **Meiji: NH211 / T2 (16:20)** Coach to Cambridge 20:30 Arrival and Tour of College	09:00 Welcome / Fire Safety 1 1 14:30 Scavenger Hunt 19:00 Welcome Dinner (Corpus Hall)	English Law 1 (HMR) **London Trip** Meet at Front Gate - 10:20 Houses of Parliament - 12:30 Supreme Court Tour - 15:15 Return to College - 18.15		
	21-Aug	**22-Aug**	**23-Aug**	**24-Aug**	**25-Aug**	**26-Aug**	**27-Aug**
08.45 - 10.00 10.15 - 11.30 11.45 - 13.00 Lunch 14.00 - 15.15 15.30 - 16.45 17:00 - 18:15	2 2 English Law 2 (HMR) (1) Environmental Law (HMR)	DG (1) 3 3 Court Visit English Law 3 (HMR)	4 Court Visit DG (1) 4 English Law 4 (HMR) (2) Environmental Law (HMR)	DG (2) 5 5 DG (2) English Law 5 (HMR) (3) International Law (HMR) (4) Practitioners' Talk (MLT)	Three day weekend		
	28-Aug	**29-Aug**	**30-Aug**	**31-Aug**	**1-Sep**	**2-Sep**	**3-Sep**
08.45 - 10.00 10.15 - 11.30 11.45 - 13.00 Lunch 14.00 -15.15 15.30 - 16.45 17:00 - 18:15	6 DG (3) DG (3) 6 English Law 6 (HMR) (5) International Law (MLT)	DG(5) 7 7 DG(5) English Law 7 (HMR) (6) International Law (MLT)	8 DG (6) DG (6) 8 English Law 8 (HMR) (7) Human Rights (HMR)	9 9 Court Visit English Law 9 (HMR) (8) Human Rights (HMR)	10 Court Visit 10 English Law 10 (HMR) (9) Human Rights (HMR) 19:00 Formal Dinner (Corpus Hall)		
	4-Sep	**5-Sep**	**6-Sep**	**7-Sep**	**8-Sep**	**9-Sep**	**10-Sep**
08.45 - 10.00 10.15 - 11.30 11.45 - 13.00 Lunch 14.00 -15.15 15.30 - 16.45 17:00 - 18:15	DG (7,8,9) 11 11 DG (7,8,9) English Law 11 (HMR)	12 12 English Law 12 (HMR) Mock Trial Planning	13 13 13 English Law 13 (HMR) **15:00 Mock Trial** (Cambridge Law Faculty Mock Trial Room)	14 14 English Law 14 (HMR) English Law 15 (HMR)	15 15 Exam 18:45 Drinks Reception (OCL) 19:30 Farewell Dinner and Certificate Ceremony (NCR)		Leave Room (9:00) Store suitcases Free Time 13:00 Coach to LHR **Departure** M: NH212 (19:00) R: EK0032 (19:50)

Programme Staff
Programme Director
Mr James Sharp
Course Convenor and Lead Lecturer
Ms Jacqueline Thomas
Guest Lecturers
Ms Mikaela Belcher
Ms Jess Goldring
Ms Cianne Jones
Dr Miguel Saldivia
Dr Andrew Sanger
Law Programme Assistants
Anitta Sibin
Satyam Verma
Serena Warwick-Yamamoto
Kiran Bodasing
Other Programme Assistants
Anne Deissenberg
Jules Olds
Jiawei Sun
Reihannisa Haji
Key to Rooms and Spaces
Harley Mason Room (HMR)
I Staircase Seminar Room (I4)
McCrum Lecture Theatre (MLT)
Old Court Lawn (OCL)
New Common Room (NCR)
Programme Office
??
Timetable Colour Code
Introduction to English Law — HMR
English for Legal Purposes (1) — I4
English for Legal Purposes (2) — I4
Guest Lectures — HMR
PA Discussion Groups — DG DG
Mock Trial and Preparation
Organised Trips and Activities

	Guest Lectures	
1	*Principles of International Environmental Law*	Dr Miguel Salvidia
2	*Legal Responses to Climate Change*	Dr Miguel Salvidia
3	*Practitioners' Talks (Barrister and Solicitor)*	Ms Jess Goldring and Ms Mikaela Belcher
4	*Introduction to International Law*	Dr Andrew Sanger
5	*Global Governance*	Dr Andrew Sanger
6	*Global Digital Platforms*	Dr Andrew Sanger
7	*International Human Rights in Context*	Ms Cianne Jones
8	*Violence Against Women and Girls*	Ms Cianne Jones
9	*Refugees, Asylum Seekers and Migrant Rights*	Ms Cianne Jones

Opening Times (weekdays only)
Breakfast: 08:00 to 08:45
Lunch: 12:30 to 13:30
Dinner: 17:00 to 18:30
Library: 09:00 to 17:00

Programme Director Phone Number:
+44 7542 848701

Your Address
[Your Name]
c/o Meiji University Programme Office
Corpus Christi College, Cambridge
CB2 1RH
UK

Porters Lodge
(+44) 1223 338000

2023/7/10

2023 年度ケンブリッジ夏期法学研修の全体スケジュールは上に添付してある写真の通りです。授業は 1 コマ 75 分で、基本的に午前中に「English Law for Legal Purposes」と「PA Discussion Groups」が、午後には「Introduction to English Law」と「Guest Lectures」がありました。

「English Law for Legal Purposes」では、先生が、法的なエッセイの書き方や適切な英語表現などをディベートやゲームなどを通じて説明してくれました。「PA Discussion Groups」ではゲストレクチャーの内容について、PA がディスカッション形式で振り返っていき、難しいところや分からなかったところを丁寧に説明してくれます。「Introduction to English Law」では、先生がイギリスの法制度や、イギリス法などを講義形式で教えてくれます。「Guest Lectures」では、各分野専門の先生が、その専門分野について特別講義をしてくれます。

他にも、毎週金曜日にはドレスやスーツを着て美味しい料理を楽しむ「Formal Dinner」や、研修の最後の週に「Mock Trial」という全て英語で行う模擬裁判があります。また、研修の最終日には習った範囲での試験がありその評価をもとに研修全体の成績が決定します。

週末は講義がないので、旅行に行く人もいたり、ケンブリッジを散策する人もいたりと各自で自由な時間を過ごしました。

ケンブリッジ大学について

■ケンブリッジについて

ケンブリッジとは、イギリスの中のイングランドの東部に位置する都市で、大学があることによって栄えた、いわゆる大学都市です。イギリスの首都であるロンドンからは 1 時間程度かかりますが、雑貨屋やパブなど、様々な店があります。

私たちが滞在していたのが 8 月、9 月ということもあり、暑すぎず、一貫して過ごしやすい気温でした。ただ、朝と昼の気温差はかなりあるため、パーカーなど簡単に替わるものを持っていくと、役に立つと思います。イギリスは、屋内にクーラーを設置していない建物が多いので、注意してください。

■ケンブリッジ大学について

ケンブリッジ大学は、ニュートンやダーウィンなど、世界的に有名な人物を数々輩出してきました。また、世界的に見ても、かなりの歴史を持つ大学です。ノーベル賞の受賞者数では、世界 2 位を取ったこともあります。

ケンブリッジ大学は、ケンブリッジの中心に位置します。イキリス伝統のカレッジ制を採用しており、カレッジことに教育が行われています。1 つのカレッジに 1 つの学部が属しているということはなく、同じ大学に属する学部が入り混じった、縦割りの組織のような形で、カレッジが存在しています。各カレッジには、寮やカフェテリア、図書館があり、学業のための設備が充実しています。各カレッジにより規模などは異なり、違いを見つけるのはとても楽しいです。私たちが通ったのはコーパスクリスティカレッジで、エントランスを通ると、すぐ目の前に広がるカレッジがとても印象的でした。また、ニュートンのリンゴの木で有名な、トリニティカレッジなども有名です。研修に参加した際はぜひ訪れてみてください。



コーパス・クリスティ・カレッジについて

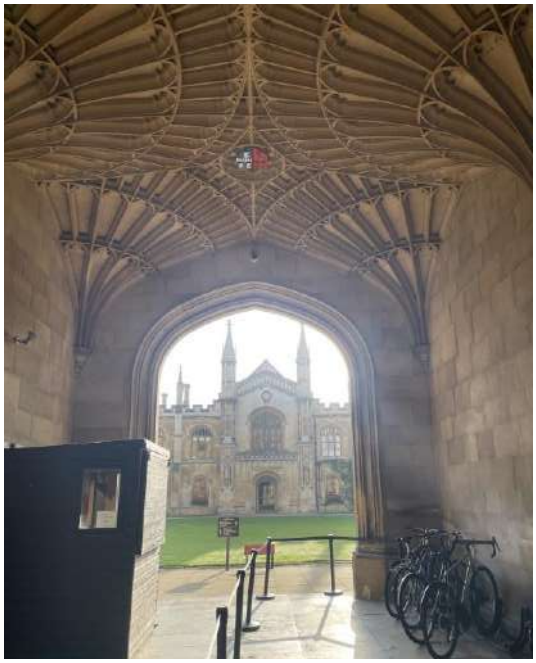
前ページでも述べたように、私たちは今回の研修で、コーパス・クリスティ・カレッジに滞在しました。コーパス・クリスティ・カレッジは、352 年に設立され、ケンブリッジ大学の中でも 6 番目に古く建てられたカレッジです。

学生数は約 250 人、大学院生は約 200 人で小規模のカレッジではありますが、ケンブリッジ大学の中でも、学問的に成功したカレッジの中の 1 つです。学部生が取得した学位のクラスでカレッジをランク付けする非公式なトンプキンス表では、2022 年のコーパス・クリスティ・カレッジは 9 位であり、学部生の中の約 30 パーセントが一流学位を取得しています。

カレッジには卓球台があり、多くの学生がそこに集まるため、日々、交流戦がゲリラ的に行われています。また、ビリヤードなどもできるため、暇ができた際にはぜひ訪れてみてください。カフェテリアではおいしい食事が毎回出され、特に人気が高かったものが金曜日に出されるフィッシュアンドチップスです。カレッジは建物の構造は複雑で迷いがちなので、1 人では行動せず、友達と行動することをお勧めします。

コーパス・クリスティ・カレッジは、ケンブリッジの中心部に位置しており、カレッジの横にはパブが多くある通りがあり、昼夜問わず栄えています。ただし、駅とカレッジは歩いて 30 分近くかかるため、時間には余裕をもって出発したほうがいいです。







大学周辺情報

大学の周辺には、とてもイギリスらしい街並みが広がっています。ケンブリッジの日の入りは８時頃なので、日本よりも外で活動できる時間が長いです。長い時間ケンブリッジの街を楽しむことができます！

■大学周辺のレストラン



大学の周辺には、いくつかのレストランがあります。イギリスでの食事はイマイチと思われがちですが、イタリアンや中華などの美味しい食事を堪能することができます！左の写真は、“Zizzi”というイタリアンレストランで食べたスパゲッティです。この店は、イギリスでとても有名なチェーン店なので、旅行先などの至る所で見かけました。休日は、各自で自由に食事をとることができるので、皆さんも是非、イギリスでの食事を楽しんでみてください！

■ケンブリッジの公園

ケンブリッジは家族連れが多い街なので、至る所に公園があります。私は放課後、友達と公園で野球をしました。公園の中でも、私のオススメは “Sheep’s Green and Coe Fen” です。写真のように、牛や鴨、そのほかにもたくさんのリスに会うことができます！皆さんも、ケンブリッジの自然を味わいましょう！





大学周辺情報

大学周辺には、下の写真のような広い公園があります。きれいな天然芝が広がっているため、少し座って辺りを眺めているだけでも癒されます。まさに、The・海外、The・イギリスという感じでした。また、勉強で疲れた時など、少し気を紛らわせたい時や、体が鈍った時のちょっとした運動にも最適です。



私自身も、友達とサッカーやキャッチボール、ランニングをする時などたくさん利用しました。



右の写真は、ご覧の通りラーメン屋です。ここでは日本のものと近しいラーメンを食べることができます。中国の方と日本の方で経営していて、店内は中華と和がゴチャ混ぜになっている感じでした。ケンブリッジでは、スーパーでカップラーメンを買うことはできますが、それ以外で麺類を食べる機会はほとんど貴重なので、大学の近くにあるのはありがたいですね！ラーメンはもちろん美味しいのですが、私が最もおすすめしたいのが餃子です。昔から餃子には謎のこだわりがあるのですが、ここの餃子は今まで食べた中で最も美味しかったです。ケンブリッジに来てここの餃子を食べないのは、中々な損失と言えます。一緒に行った友達もとても気に入っていました。

右の写真は、ケンブリッジ周辺に多くあった、アイスの屋台で購入したものです。



Scavenger Hunt(宝探し)の時に、イギリスの方がどこからともなく同じようなアイスを持って歩いているのを何回も見かけ、「どこで買ったのだろう」と不思議に感じた記憶があります。日常を過ごしているだけなのに、お祭りの時にたまに感じるそれを感じたためだと思われますが…。

味はもちろん美味しかったですが、盛り付けがご覧の通り中々すごいですよね。しかし、実はよく計算されていて、溶けやすいアイスであることを考慮して、溶けた時にそのままコーンの中にアイスが落ちていって、最後まで楽しめるようになっています。（偶然かもしれませんが）

London I（週末旅行）

【大英博物館】



本物を間近に見ることができるので、歴史に近づいている実感が出てきました。館内がとても広いので、歴史に興味がある方は、複数回訪ねることがおすすめです！

各国の言語バージョンのガイダンス（６ポンド/部）が入口で売っているので、英語を読むことが不安な方にはおすすめです。

入場料は無料なので、夏休みと週末が重なって、訪問客が多くいることが想定されます。事前に、ネット上でチケット予約することを推奨します。

館内のカフェでは、アフタヌーンティー（予約必須）も楽しめるので、ぜひ行ってみてください！

【シャーロック・ホームズミュージアム】



シャーロック・ホームズファンの皆様、イギリスに滞在しているうちに、聖地を尋ねるチャンスを、絶対見逃さないようにしてください！名探偵であるシャーロックとワトスン医師が共同生活していた場面は、211B Baker Street にあるシャーロック・ホームズミュージアムで忠実に再現されています。

それだけではなく、ベーカー街地下鉄駅で降りてからすぐに、シャーロックがまるで実際に存在しているかのような雰囲気が感じられます！ぜひ行ってみってください！

【ハリーポッタースタジオツアー】



最後の週末に、学生一同でロンドンの北西にあるハリーポッタースタジオに行ってきました！

他の観光スポットと比べて交通は割と不便ですが、せっかくのイギリスの旅行なので、行かないと損だと思います！映画にある名場面が、小道具まで細かく再現されていて、臨場感満載のツアーです。



団体（20 人以上）だと、チケットを通常よりも安い価格で、お得に入手することができます。ただ、ハリーポッターは世界中で人気なので、チケット予約をはやめに予約しておいた方がいいと思います。（参考までに、私たちは７月中旬には予約していました！）

バタービールはぜひ飲んでみてください！（待機列は結構長かったです…）

London Ⅱ （週末旅行）

僕たちは、週末、ロンドンを本拠地とするアーセナルのスタジアムツアーに参加し、アーセナル対フラムのリーグ戦の試合を観戦しました。スタジアムツアーでは、本来であれば入ることが出来ないドレッシングルームや VIP 席、そしてなんとピッチサイドにも行くことが出来るので、とてもオススメです！





翌日には、念願のプレミアリーグの試合を観戦しました。6 万人が入るスタジアムは満員でファンの熱量に圧倒されました。試合は 2-2 の引き分けに終わってしまいましたが、生涯忘れることのない体験をすることが出来ました。



今シーズンからアーセナルは、有料会員限定でチケットを抽選販売する形に変わりました。倍率はかなり高く、実際に私たちは落選してしまいました。事前に落選したことに備えて、仲介販売サイトなどを調べておくことをお勧めします。少し値段は高くなってしまいましたが、本場のサッカー観戦は最高でした！

Brighton（ブライトン）

私たちは、週末にイギリスの南東部にあるビーチ、Brighton に行きました！

ブライトンは、イギリスを代表するビーチリゾートの街です。ケンブリッジからは、電車で約 3 時間と少し遠いですが、直通の電車があるため、みんなでわいわい話しているうちにあっという間に到着します。駅からビーチまでは徒歩 15 分程度です。週末だったため、家族連れや観光客で賑わっていました。

海がとてもきれいで、入りたくなること間違いなしなので、水着を持っていくことをお勧めします‼（ちなみに海水は日本よりもめちゃくちゃしょっぱいので、飲むのはおすすめしません…）





【Brighton Pier】

ブライトンには、海だけでなく、テーマパークもあります。桟橋の上に、お化け屋敷やジェットコースター、スプラッシュコースターなど、たくさんの種類のアトラクションがあり、海の上というスリルも相まって、どれもとても面白いです。特に、TURBO というジェットコースターがおすすめです！はじめは、高さがないため、たいして怖くないだろうと思っていましたが、乗ってみると無重力を感じるほど速く、乗り終わった後にはフラフラでした…。
チケットは当日、現地で 1 日券か回数券を選んで、購入することができます。

ブライトンに行った際にはぜひ訪れてみてください！

【Fish and chips】

イギリスと言えば「フィッシュアンドチップス」！！
ブライトンでは揚げたての、あつあつカリカリのフィッシュとチップスを堪能できます。ただし、チップスが想像以上に多いのと、カモメが常に空から奪おうと狙っているので、注意が必要です。





ブライトンには他にも、逆さの家や 162mの高さの展望台など、観光名所がたくさんあります。私たちは日帰りでしたが、十分楽しむことができました。
ぜひ一度訪れてみてください！！

Edinburgh（エジンバラ）

旧市街↘



■Edinburgh(エジンバラ)ってどんな街？

「エドウィンの城」を意味するエジンバラは、スコットランドの首都です。中世の建築物が立ち並ぶ旧市街と、計画都市である新市街が織りなす景観の美しさから、世界遺産に登録されています。ブリテン島北東部に位置している関係で、8 月でも 13℃～17℃程しか気温が上がらず、夜には 10℃を下回ることもあります。街のいたるところでマフラーやポンチョ、ダウンが販売されているので、現地で防寒着を調達するのもいいですね！

■アクセス

早く予約したこともあり飛行機が一番安く早かったため、easyJet という格安航空(STN→EDI)を使って行きました。ただし、預け入れや機内荷物棚の使用は別料金、機内持ち込み手荷物のサイズもかなり限られるので、注意が必要です(サイズ超過で£48＝約 9000 円の罰金を取られた人もいます…)。お土産やスコッチウイスキーなどの液体物をたくさん持ち帰りたい場合、帰りは電車にするなど工夫するといいと思います。



■観光・おすすめスポット





【エジンバラ城】

エジンバラと言えばココ！市内を一望でき、その景色は圧巻です。王冠や収容所も見ることができます。





【エレファントカフェ】

J.K.ローリングが賢者の石を執筆する際に、通い詰めたと言われる場所です。2021 年に起きた火事の影響で、現在も休業中でした。

【The Scotch Whisky Experience】

エジンバラ城の目の前にある、スコッチウイスキーの博物館です。ウイスキーの歴史や製造工程を楽しく学ぶことができます。試飲もできるので、お酒好きの方には特におすすめです。

【エジンバラ・フェスティバル】

毎月 8 月、エジンバラ市内の至る所で様々なジャンルのパフォーマンスが繰り広げられています。夜になると、エジンバラ城でミリタリー・タトゥーと呼ばれる軍楽隊のショーも見ることができます。



【MUSSRL INN】

ムール貝専門店です。本当においしくて、滞在中 2 回も訪れてしまいました！



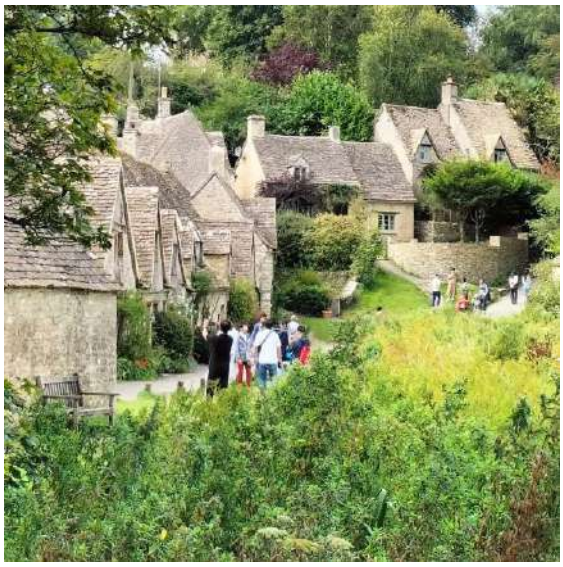
Cotswolds(コッツウォルズ)

コッツウォルズはロンドンから西へ 150km ほど離れた場所に位置する、緑豊かな丘陵地帯です。はちみつ色の石灰岩の家が並び、まるで絵本の世界に迷い込んだかのような美しい風景が広がっています。

いくつかの村で構成されているコッツウォルズは１つ１つの観光名所が離れているので、バスを利用するかツアーを申し込むと良いと思います。私は日帰りのバスツアーを予約して４つの村を巡りました。

中でも「英国で最も美しい村」と賞賛されているバイブリーでは、川沿いの美しい風景を楽しむことが出来ます。川にいるカモや白鳥にも癒されました。





食べ物はどれもおいしかったのですが、ボートン・オン・ザ・ウォーターにある“THE CHIP SHED”でフィッシュアンドチップスを食べるのがおすすめです。他のパブやレストランで食べたものよりも衣が薄くカリッとしていて、魚の身もフワフワとしていました。甘いものなら、“The Chestnut Tree”のアイスクリームがおすすめです。特に蜂蜜味が美味しかったです。

お土産としてはハフキンスのエコバッグやジャム、トラウトファームのラベンダーグッズ、そして蜂蜜などが有名です。その他にもアンティークのお店など素敵な場所が沢山あるのでぜひ立ち寄ってみてください。



Stonehenge & Bath(ストーンヘンジ & バース)

■ストーンヘンジ



ストーンヘンジとは､イギリス南部にある 4500 年前から存在している巨石群です。世界遺産にも登録されています。ロンドンからは少し離れていて、自力で行くのは難しいので、私たちはストーンヘンジとバースがセットになったツアーに参加しました。ロンドンからバスで２時間ほど揺られるとだんだんとのどかな風景が見えてきて、ストーンヘンジの近くのビジターセンターに着きます。そこからストーンヘンジのあるところまでは 30 分ほど歩きますが、途中の広大な草原や麦のロールなどの景色はとても美しく、歩くのも気持ちがよいので、歩くのが好きならば、行きは歩き、帰りはバスに乗ることをおすすめします。ストーンヘンジは間近で見ると想像以上に大きく、誰が何の目的で作ったのか未だに分かっておらず、謎めいた不思議な雰囲気をまとっていました。ストーンヘンジ周辺に石や木以外の障害物はなく、どこを見渡しても地平線が見え日本ではなかなか見られない景色です。

■バース

ストーンヘンジを見た後、1 時間ほどバスで移動し、バースという都市に行きました。この都市も古代の温泉として世界遺産に登録されていて、中でも有名なローマ浴場博物館は 2000 年前から古代ローマ人が温泉として使っていました。右の写真はその大浴場です。現在でも温泉が湧き出ていて、温泉の温かさを感じることができます。バースという名前は風呂の英語名「Bath」の由来になっており、世界最古の温泉といわれています。





バースは、建物がバーズストーンで作られているものが多く、蜂蜜色をした壁に包まれた街並みも見どころです。左の写真は、ロイヤル・クレッセントというところです。とても壮大な景色に魅了されました。また、バスガイドさんいわく、バースはアイスクリームも有名なようで、多くのアイスクリームショップがありました。どれもとても美味しく、私たちは 3 回アイスを食べました笑。ストーンヘンジもバースも歴史を感じることができ、きれいな街並みも堪能できるので、ぜひツアーを予約して行ってみてください！！

Canterbury(カンタベリー)

私たちは、週末にツアーで、カンタベリーを訪れました！

【Canterbury】

カンタベリーはイギリスの大都市圏から少し離れた場所に位置している、緑あふれる自然が豊かな街です。

また、カンタベリーには大聖堂があり、イギリス最大の聖地巡礼地としても知られています。都市部とはまた違った良さがあり、とても心が休まる場所でした。お土産を買えるお店も充実していました！

自然が好きな方、静かな場所に訪れたい方にオススメです！





【カンタベリー大聖堂】

カンタベリー大聖堂はカンタベリーのシンボルです。外装は改装工事中でしたが、聖堂内には、写真のようなきらびやかなステンドクラスや豪華絢爛な装飾が施されています。これらの美しさに感動しました。カンタベリー大聖堂は英国国教会の総本山であり、イギリスの国王の戴冠式で、国王に冠を被せる大役を担うのは、カンタベリー大司教です。



ジェフリー＝チョーサーが書いた『カンタベリー物語』は、カンタベリーに巡礼に向かうというとても有名な旅物語です。

カンタベリーに行く方は読んでから行くと、より楽しいかもしれませんね！

Photo







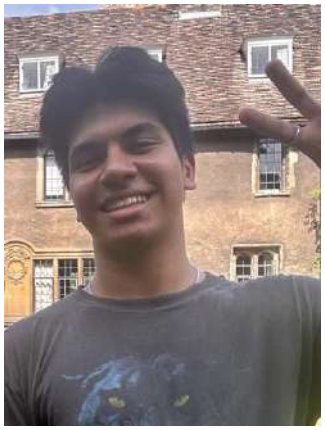






PA(Program Assistant)紹介

ケンブリッジ大学の学生たちが、PA(プログラムアシスタント)として私たちの留学生活をサポートしてくれました！



Kiaran

Kiaran(通称：キラン)は、PA の中では比較的大人しい性格です。Kiaran に講義のわからないところを聞けば、丁寧に説明してくれます。一見すると一番常識人ですが稀にふざけた一面を見せてくれます。

Serena(通称:セリーナ)は明るく、いつも日本のうちわを持ち歩いています。家族が日本人で日本語を勉強中です。日本にとても興味があるので日本語を教えると彼女も実践的な英語を教えてくれます。日本に行きたいと言っていました。



Serena



Anitta

Anitta（通称：アニータ）は明るい盛り上げ役です。よく、ほかの PA や学生をからかっていました。卒業したらソリシター（日本で言う弁護士）になるそうです。流行に敏感なのでイギリスのトレンドを聞いてみましょう。

Satyam(通称:サット)は落ち着きがあって大人びています。卓球がとても強いです。ほかの PA からは、ミステリアスだといわれていました。ゴルフやサッカーが好きで、マンチェスターユナイテッドのファンです。



Satyam

Scavenger Hunt

私たちはケンブリッジに到着した翌日に、PA が企画をしてくれた「Scavenger Hunt」というイベントに参加しました。これは日本でいう「借り物競争」に似ています。いくつかのグループに分かれて、対戦形式で行いました。PA が事前に用意してくれていたお題にそって、ケンブリッジの町を駆け回りました！



同じグループの仲間と協力しながら楽しく体験することができ、ここで仲を深めることができました。途中、みんなでアイスを食べたりもしました！

古くから残る歴史的建造物をはじめ、小さなお店など様々な場所を巡り、グループのみんなと協力し、ミッション達成を目指して頑張りました。





このイベントを通して、ケンブリッジについて多くのことを知り、また様々な場所を訪れることができたので、PA の方々に感謝しています。

London trip

プログラム１週目の金曜日は、ロンドンにある国会議事堂と最高裁判所を訪れました。



最初に国会議事堂を訪れました。

入ってすぐ、正面に見えるステンドグラスはとても綺麗でした！各々音声ガイドを聞きながら、庶民院や貴族院など、内部を自由に見学しました。普段はここで重要な議論が交わされていると思うと、感慨深いものがありました。内部の装飾や絵画は、豪華で、歴史が感じられました。



次に最高裁判所を訪れました。裁判所の職員の方の説明を受けながら、いくつかの法廷を見学しました。内部には、イギリス国内の訴訟を扱う法廷のほかに、国外からの訴訟を扱う、様々な国旗がずらりと並んだ法廷もありました。裁判所内で実際に、ＬＧＢＴに関する訴訟について、裁判官・原告の弁護士・被告の弁護士側に分かれて議論することができ、貴重な経験になりました。職員の方の説明は少し難しかったですが、諦めず集中して聞きましょう！

このように、イギリスの立法・司法を支える場所を巡れた一日は、非常に充実した時間でした。
みなさんもぜひ、積み重ねられた伝統や、綺麗な装飾が醸し出す雰囲気を味わってみてください！



↑最高裁判所の装飾（凝っていて素敵でした）

English for Legal Purposes

■English for Legal Purposes とは?

学生を 2 つのグループに分けて、少人数形式で授業を行うものです。担当は Jackie 先生です。毎回、英語を使ったミニゲームから授業が始まります。ミニゲームは個人戦やグループで行うものなど、様々なゲームを先生が毎回用意してくださり、とても楽しめました。特に、グループ対抗のゲームでは、盛り上がっていました！ゲームが終わった後は授業に入っていきます。

この授業では主に、イギリス法や判例、社会問題、アカデミック・ライティングやエッセイの書き方について学習します。(日本の社会問題についても、軽く英語で説明できるようにしておくと良いと思います。) Jackie 先生は丁寧に教えてくださり、グループディスカッションやロールプレイング、個人で意見を述べるなど能動的な授業だったことが印象的でした。先生は、私たちが意見を述べる時や途中で質問がある時に優しく聞いてくださるので、たとえ英語が完璧でなくとも、どんどんチャレンジすることをおすすめします！

【アカデミック・ライティング】

特に印象的な授業でした。英語での論文やエッセイの書き方について学びます。論文では、普段使っているものとは異なった専門的な語句を用います。そこで構造(introduction、body など)や文法(動詞や接続詞、冠詞など)について学習し、実際に書いて練習します。さらに先生に添削やフィードバックをしていただけるので、どこを直せばよいかがわかり、帰国後に受ける TOEIC の S&W でも活かせると思います！(実際に私は、出発前よりスコアが上がりました！)

授業中は、Jackie 先生と私たち生徒の距離がとても近く、参加者同士はもちろん、先生との親交もとても深まりました。日本だとなかなか経験できないことだと思うので、ぜひチャレンジ精神を持って、間違いを恐れず積極的に発言してみてください！

English for Legal Purposes

（参加者の声）



毎回授業の初めにやるミニゲームがとても楽しかった。初めは先生の言っていることを聞き取れず、理解することが難しかったが、徐々に英語に慣れていくのを実感できた。

英語での論文の書き方や、論文を書く際の文法などを学んだ。日本ではなかなか学ぶことのできない知識を得ることができ、今後英語を使って論文を書く際に活かせる貴重なものだと感じた。





法律に関する動画を見て、グループワークを行う機会が多かった。今まであまり関わっていなかった留学の仲間と英語で交流し、意見を交換した。友達の輪が広がり、留学がさらに楽しくなった。

Introduction to English Law

この授業は、イギリスの法体系や裁判所の仕組み、イギリスと EU との関係、契約法などを学ぶ、全 15 回のイギリス法の入門の科目となっています。事前にテキストが配布されるので、予習として該当範囲を読んでから授業に臨みます。予習の段階で内容が完全に理解できなくても、Jackie 先生が授業で丁寧に教えてくださるので、安心して授業に臨むことができます。

■ 授業内容

授業は全部で 15 回あり、回数を重ねるにつれ、内容も少しずつ難しくなっていきます。この授業で取り扱う内容を少し紹介します。

【The Doctrine of Judicial Precedent】

イギリスの法律では判例がとても重要な意味を持ちます。授業では Judicial Precedent の歴史やメリット、デメリットなどを学びます。そして、授業では有名な判例なども扱います。



【The Courts and Criminal Procedure】

この回ではイギリスの刑法の仕組みを学びます。Magistrate's Court などの日本の刑法の仕組みと大きく異なる部分が多くあるので、それぞれを比較しながら授業を受けるとより面白いです。この授業で学んだ内容は、実際に裁判所に行き裁判を傍聴する Court Visit や最終週に行われる Mock Trial の際にも役立ちます。



【Introduction to the English Law of Contract】

この回ではイギリスの契約法について学びます。イギリスは、日本の大陸法と異なり、英米法の国であるため、契約の成立の条件などに違いがあります。授業ではそれぞれの体系の違いを比較しながら、契約法について理解を深めていきます。



Introduction to English Law

（参加者の声）



Jackie 先生が、私たちの理解度に合わせて授業を進めてくださったので、授業についていけなくなることはなく、英語でもしっかりと内容を理解できた！

最初から難しい内容に取り組むのではなく、だんだんとレベルが上がっていくので、複雑な内容を学ぶ頃には、随分と英語に慣れた状態で授業を受けることができた。



予習するテキストが配られるので、それを授業前に読んでいれば、先生がお話しされる内容が分かった。ずっと英語を聞くので、リスニング力がかなり上がり、プログラム後半は授業内容を一度で聞き取れるようになった。



Guest Lectures

Guest Lectures の３つのテーマについて紹介します。

Guest Lectures では現代社会でよく取り上げられている、環境法（Environmental law)、国際法（International law)、人権・ジェンダー法（Human rights）について学びました。

【Environmental law】

人間の活動が環境に与えている問題を解決するために、各国の対策法を比較したり、Carbon taxes（炭素税）や Emissions trading（排出量取引）などの取り組みについて学んだりしました。私たちにも身近な問題であり、日本は世界より遅れていると感じました。

【International law】

国際法の定義や基本的な言葉の解説、国家間の問題について、国際法を用いて解決する方法などを学びました。現在起こっている国際社会での紛争や、SNS などで起こる国際問題についても取り上げられ、とても興味深いものでした。国際法は概念的なものであるので、私は最も理解するのが難しかったのですが、予習復習を欠かさずに行えば、何とかついていけます！

【Human rights】

この授業では人権に関するあらゆる問題、人種、性別、宗教などの差別を、法律的な視点からどのように解決できるのかを学ぶものでした。グループワークや発表が多く、様々な人の意見を聞き、日本とは異なる人権問題へのアプローチを知ることができたのも魅力でした。



講義中は、知らない単語や難しい話題が飛び交い、先生が話している内容を理解することに必死でした。しかし、グループワークや話し合いの時間があったり、先生も理解しやすい言葉で説明してくださったりするため、楽しく授業を受けることができました！ PA ディスカッションでは、より内容を深堀し、解決策なども検討していきます。また、事前に留学基礎講座 C の授業で、Guest Lectures の内容に触れていたことも手助けになりました。

Guest Lectures

難易度：☆☆☆☆

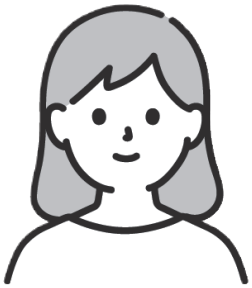
　とても面白い授業です。ゲストレクチャーは環境法、国際法と人権法という3つの授業に分けられており、それぞれ２～３回ほど行います。世界中で話題となっているテーマについて、じっくりと考えられる授業です。各先生方は個性が強く専門的で、新しく興味深い考え方をお持ちです。ハイスピードな英語での授業なので、この授業は英語のリスニング力を向上させるチャンスとなるでしょう。

注意点
・Pre-Reading Handout（事前資料）がPAから送られてくるので、原本が難しいと思う方は必ず読んでおきましょう。
・先生は授業の途中に質問をされますが、恥ずかしがらずに、思いついたことを何でも言いましょう。
・アクセントや語彙の難度によって分かりづらいこともありますが、分からないところを授業中に質問しても構いません。また、どうしても分からないところが多いなら、キーワードを掴んでみましょう。

最後に
・この講義のポイントは何か
・筆者はなぜこのように考えるのか
・筆者の考えと他人の考えとの違いは何か
・筆者の考えについてagreeかdisagreeか
以上の４点をもってレクチャー資料を読んでいきましょう！

Guest Lectures(参加者の声)

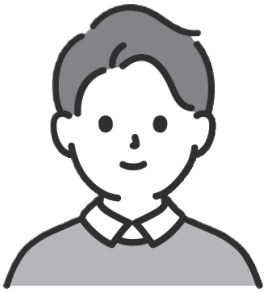
Environmental Law について



環境法を学ぶのは今回が初めてで、難しさもあったのですが、先生がとても丁寧に教えて下さったおかげで環境法の勉強が楽しくなり、もっと学びたいと思うようになりました。

International Law について

概念的な部分も多く、少しついていくのが難しかったですが、PA さんたちが理解できるまで付き合ってくれました！Twitter などインターネットについての授業が特に面白かったです！



Human Rights について



講義内容をもとに劇を作って発表したり、グループディスカッションの後にプレゼンテーションを行ったりすることを通じて、より主体的に考えることができました。フェミニズムの種類や格差の原因など幅広く学ぶことで、人権に関する問題についての関心や理解が深まりました。

Mock Trial(模擬裁判)

Mock trial (模擬裁判)は法学研修の集大成ともいえます！課題として出された事件について、検察官、弁護士、裁判官、陪審員、証人など各々役割を決め、英語で実際の裁判を行っていきます。今年は新型コロナウイルスの陽性者が多かったため、初めてのオンライン開催でした。

【事前準備】

事前準備では弁護側と検察側に分かれ、お互いに有利になるような弁論をチームで考えていきます。課題となる事件の詳細までは伝えられないため、想像力を働かせてアイディアを出し合います。PA の方々が互いのチームで事実の入れ違いがないように調節してくださったり、様々なサポートをしてくださったりしました。

【本番】

実際の模擬裁判では、被告や証人の迫真の演技や、弁護士･検察官の鋭い質問が飛び交います。その弁論を聞いていた陪審員は、別室で有罪無罪についての審議をし、有罪か無罪か、有罪であれば何罪かを発表します。

【Mock Trial の経験から得られること】

日本では模擬裁判やディスカッションの機会はなかなか多く得られないと思います。そのため「難しそう」「大変そう」と思われる方がいらっしゃるかもしれませんが、PA の方が手厚くサポートをしてくださり、準備万端、自信を持って参加している方が多かった印象です。

1 か月の研修の中では、ほぼ毎日前回の授業について復習するとともに、ディスカッションをする時間があります。研修スタート直後、あまり経験がなかった私は、発言する度に緊張していました。しかし、徐々に理解できるようになったり、楽しめるようになったり、自分から質問を投げかけたりすることができるようになったりしました！また、吸収したばかりの新鮮な考えをアウトプットし、自分の意見を考えることで、より理解することができました。

Mock Trial は、1 か月で学んだイギリス法についての知識とディスカッションの力という二つの学びを最後に発揮できる機会です！是非ご自身が興味のある役割に手を挙げ、積極的に参加してみてください！

Court Visit（裁判所見学）

私たちは研修の 2 週目と 3 週目にケンブリッジ市内にある裁判所を訪問しました。

【Magistrate’s court】

最初に私たちが訪れたのは Magistrate’s court(治安判事裁判所)でした。この裁判所では刑事事件が裁かれ、特に略式起訴で足りる犯罪(summary offence と呼ばれます)といった軽微な犯罪が審理されます。審理する判事たちは Magistrate（治安判事）で、彼らは一般市民であり、法曹資格を持ちません。日本で一般市民が裁判に参加できるのは裁判員制度という限られた形だけなので驚きました。

私たちが訪れた日には 2 件の窃盗の事件が審理され、懲役 8 週間(約 2 ヶ月)などの刑罰が Magistrates たちによって決定されていました。

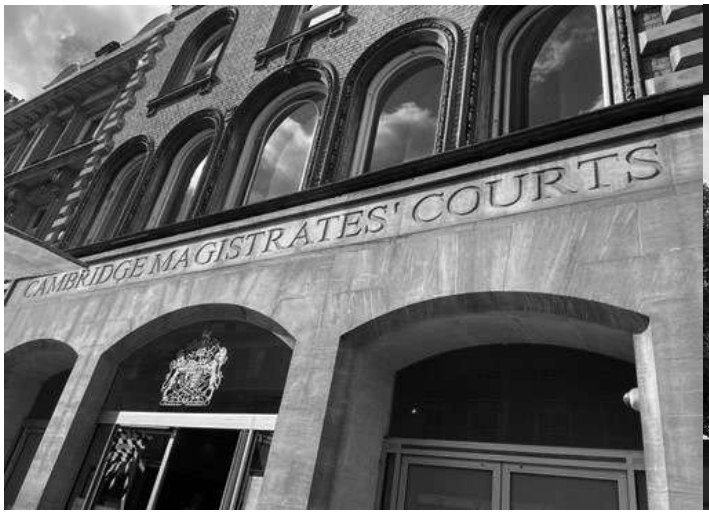
【Crown Court & County Court】

次に私たちが訪れたのは Crown Court(刑事法院)でした。刑事法院では重罪、中間罪の審理が行われます。私たちが見ることができたのは Slavery(奴隷)、窃盗の事件でした。Crown Court では裁判をじっくり傍聴するのは少し難しかったです。（チームによって訪れた裁判所や実際に傍聴したケースは異なるかと思います。）

【感想】

どちらの裁判所も入り口には所持品検査があり、全体的に厳粛な雰囲気の場だったことが印象的です。私はこの Court Visit が初めての裁判所訪問だったので興味深かったです。

日本だと裁判所に傍聴しに行くのはいささか敷居が高いイメージがあります。ですが、ケンブリッジではカレッジから徒歩約 20 分ほどだったので身近に感じることができ、魅力的に思いました。





Formal Dinner

今回の研修中には、3 回フォーマルディナーがありました！フォーマルディナーとは、正装で行われる晩餐会のことです。

金曜の授業後、フォーマルな洋服に着替えて出席します。男の子はスーツ、女の子は同窓会や結婚式で着るようなドレスやパンツスタイルで、皆さんとてもかっこいい&綺麗でした！(冠婚葬祭よりカジュアルなので、個性的なアイテムやあそびごころを取り入れている方もいてとても素敵でした！)

ディナーの前、綺麗な中庭や談話室でドリンクを片手に色々な方とお話しします！他のプログラムに参加している方やゲストレクチャーの先生方など、様々な方とお話しできたのが楽しかったです！

その後、食堂でディナーを頂きます。美味しいコース料理に、メニューに合ったワインまで用意されていて大満足でした！同じプログラムに参加している友人は勿論、PA や先生方、別のプログラムに参加している方達と沢山談笑し、とっても楽しい時間でした。イギリスの伝統的なディナーを体験できる貴重な時間でした。

ディナーの後、PA やゲスト、先生方と近くのパブに行きます！(任意で、次の日の予定に合わせて各々解散します！)(個人的に、毎週末土曜日の朝早くから旅行の予定を立てていたにも関わらず、パブが大好きだった私は毎回ギリギリまで残ってしまい次の日の旅行は寝坊ギリギリで参戦しました笑笑)





寮について



私たちが生活した寮は 2 つあります。1 つはケンブリッジ大学内にある寮、もう 1 つはケンブリッジ大学から 5 分ほど歩いたところにある寮です。右の写真は後者の寮ですが、3 階建ての寮となっています。

部屋は、参加者全員に 1 人 1 部屋が割り当てられます。共有して使用する場所は、バスルーム、トイレ、キッチンルームです。

まず、バスルームとトイレに関して、基本的に約 5～6 人で 1 つのバスルームとトイレを共有します。しかし、事前にバスルーム付きの部屋を申請し抽選にて当選した学生はバスルーム付きの部屋で生活することができます。

次にキッチンルームについて、冷蔵庫、電子レンジ、コンロ、電気ポットなどが常備されています。そのため、日本から持ってきた味噌汁、カップラーメンを作って食べる学生や軽く料理をする学生もいました。そのため、安心して日本から乾物を持ってきて大丈夫です！学生全員がキッチンルームを活用していたように思います。

また、寮は明治大学の学生のみで生活するのではなく、ケンブリッジ研修のお手伝いをしてくださるケンブリッジ大学生の PA さんのほか、一緒の研修に参加している立命館の学生のみなさんと一緒の寮で生活します。そのため、立命館の学生のみなさんとも授業の内容を確認したり、一緒に遊びに行ったり、親交を深めることができました。



そして、部屋に関しては個体差があるので、広さはそれぞれです。ただどの部屋も十分な広さなので、スーツケースを広げたままでも問題ありません！棚やクローゼットなどの収納スペースも多くあるので、生活しやすいと思います。また、私が生活した寮は全部屋に洗面台が備え付けられていました。

気になる部屋の掃除については、週 1 回の頻度でハウスキーパーさんが掃除してくださいます。部屋に用意されたバスタオル、フェイスタオル、バスマットもその際に交換してもらいます。

なお、寮の部屋はオートロックで鍵が閉まります。お風呂に行く際や少し外に出た際、鍵を持たずに部屋を出てしまうと、大学のエントランスまで歩き、守衛さんに合い鍵をもらう必要があります。夜遅い時間に鍵を持たずに部屋を出てしまうと守衛さんもいないので、要注意です！私は一度、友達の部屋に泊めさせてもらいました。しかし、うっかりして計 4 回ほど鍵を持たずに外に出てしまったので、守衛さんに「また君？」と言われることもありました。(笑)

また、大学街ということで夜でも賑やかなことがありましたが、ケンブリッジ大学の学生になれた気分でした。寮の近くには、カフェやパブが多くあるので、放課後に友達と行くのにおすすめです。

ケンブリッジでの１日(Weekday)

平日の１日について紹介します！
イギリスでの生活は慣れないことも多いですが、自分の中で大体のルーティンを作っておくと過ごしやすくなると思います。

7:30	**起床**
7:30~8:00	**朝の身支度**
8:00~8:05	**コロナの検査結果の提出**
8:05~8:30	**朝食** クロワッサンがおいしくて毎日食べていました。
8:45~10:00	**English for Legal Purpose** ジャッキー先生の授業です。授業の初めにゲームがあり、毎回盛り上がります！授業中は積極的に発言するようにしていました。
10:15~11:30	**PA Discussion Groups** 前日のゲストレクチャーについて PA とディスカッションしながら理解を深めます。PA が作ってくれる資料がとてもわかりやすかったです。
11:30~12:30	**自由時間** 昼食まで自由時間です。この時間でスーパーに行ったり、午後の予習をしたりしていました。
12:30~14:00	**昼食、休憩**
14:00~15:15	**English Law** ジャッキー先生の授業で、イギリスの法律について学びます。予習をしっかりしておくと内容が頭に入りやすいです。
15:30~16:45	**Guest Lecture** 内容は難しいですが、先生方は丁寧に教えてくださいます。ディスカッションやグループワークがあり、とても充実しています。
16:45~18:00	**自由時間**
18:00~19:00	**夕食**
19:00~22:00	**自由時間** この時間で洗濯や予習を済ませたり、友達と卓球をしたりしていました。
22:00~23:00	**入浴など**
24:00	**就寝**

日によって授業数やイベントが異なるので自由時間が多い日もあれば少ない日もあり、いろいろな過ごし方ができます。実際に、授業が終わってからケンブリッジを散策した日もあれば、ロンドンに行った日もありました。パブに行く機会もあると思いますが、盛り上がってついつい夜遅くなってしまうので、次の日授業がある場合は気を付けましょう！

ケンブリッジでの１日(Day off)

休日の過ごし方の一例をご紹介します！慣れない環境でストレスを感じてしまうときもあると思いますが、休日にうまくリフレッシュすることも大切です。

8:30	**起床**
8:30~9:00	**身支度**
9:30	**朝食**
	休日は大学周辺でご飯を探します。
10:30~12:30	**友人とケンブリッジを散策**
	お土産を探したり、ケンブリッジ大学のグッズを見て回ったりしました。ケンブリッジ大学のショップはたくさんあり、値段が違うことがあるのでいろいろなお店を見てから買うのをおすすめします！
12:30~13:30	**カフェで昼食**
	おしゃべりが盛り上がり、あっという間に時間が経ってしまいます。
13:30~16:00	**再び散策**
16:00~18:30	**自由時間**
	洗濯、予習などを済ませます。
18:30~19:30	**夕食**
	近くにあるお店でテイクアウトしてきて、友達と Old Court の芝生で夜ごはん。Old Court の芝生で食べると気持ちいいです。
19:30~21:00	**卓球**
	卓球は毎回盛り上がります。
21:00~23:00	**パブ**
	大学のすぐ近くにある Brew Dog というパブによく行っていました！
23:00~24:00	**入浴など**
24:00	**就寝**

休日の過ごし方は本当に自由で、人それぞれです。週によりますが予習以外の課題は多くないので、土日は自由な過ごし方ができると思います。

ケンブリッジでゆっくり過ごすのもリラックスできるのでおすすめです。ケンブリッジ周辺はレストラン、パブ、ショッピングセンター、無料で入れる博物館など楽しめるところがたくさんあるので、ぜひどこかの休日でケンブリッジを散策してみてください。

また、せっかくの機会なのでイギリス国内のいろいろなところにお出かけしてみるのもよいと思います。私は友人たちとエディンバラやロンドンに行きました。どこかに宿泊しようと考えている場合は、早めに泊まる場所を予約しておくと安心です。

PA アクティビティ



PA アクティビティとは、PA(プログラムアシスタント)が私たちのために、様々なイベントを企画してくれるものです。毎日のように、PA は Slack を通じてイベントの参加者を募ってくれます。講義の予復習もあり大変な毎日ですが、なるべく多くのアクティビティに参加すると、PA や他のコースの人とも仲良くなれます。勉強と遊びをうまく両立させながら、今しかできない経験を全力で楽しんでください！

寮内にあるバーにはビリヤードが、その上のフロアには卓球台や大きなスピーカーがあり、自由に使って遊ぶことができます。
特に人気だったのは卓球で、約 1 カ月の滞在期間中にかなりの人が上達していました。PA 達、そして特に、シャープ先生が本当に強いので、行ったらぜひ対戦してみてください！(ちなみにシャープ先生、ピアノも演奏できて超多才です…)





ケンブリッジと言えば、パンティング（川下り）ですよね！General コースの PA、Jules が、通り過ぎるカレッジの説明をしながら船を漕いでくれました。ケンブリッジ大学について詳しくなれた上に、船に乗らずには見ることのできない景色をゆっくりと堪能でき、最高の思い出になりました。自分でも漕ぐことができるので、一度挑戦してみると面白いと思います。



ケンブリッジ市内の映画館で Barbie を観ました。もちろん字幕はなく全て英語ですが、いい経験になったと思います。椅子は広くふかふかで眠くなります。



James Sharp Cup と称し、Law コース VS General コースでサッカーの試合をしました。全員で駆け抜け、とても盛り上がりました！



ネイルの得意な Anitta が、みんなにネイルをしてくれました。素敵！

参加者お勧めのレストラン

【AROMI】




四角いピザが人気のイタリアンレストランで、1枚だけでも満腹になります！
ピザの他にも美味しいパンやスイーツが売っています。

【Fitzbillies】





イングリッシュブレックファーストやエッグベネディクトなどの美味しい朝食が食べられます！
また、カフェとしても使えるお洒落なお店です。

【Jack’s Gelato】





お店の前にいつもお客さんが並んでいる美味しいアイスクリーム屋さんです！
毎日違ったアイスクリームがあるので何度もリピートできます。

お土産情報



ケンブリッジには、イギリスの伝統的なお菓子や雑貨が売られているお店がたくさんあります。イギリスならではであるテディベアやピーターラビットのぬいぐるみやマグカップ、文房具はとても可愛らしく、お土産にぴったりです。
また、イギリスの美しい風景が描かれた数多くのポストカードも販売されており、購入すれば、帰国後もいつでも、イギリスでの思い出に浸ることができるでしょう。

イギリスの有名なお土産といえば、とても甘いチョコレートやファッジ、そして紅茶です。イギリスの国旗をモチーフにしたパッケージのものや、イギリスの景色が描かれたものなど、様々な種類のお土産を購入できます。ギフトショップだけでなく、スーパーやコンビニには、お手頃な価格のお菓子があり、日本人にも喜ばれること間違いありません。







食べ物は食べるとなくなってしまいますが、せっかくイギリスに行ったなら、ずっと形に残る思い出の品も購入したいことでしょう。
ケンブリッジパーカーは、ほとんどの生徒が購入していました。もちろんケンブリッジでしか手に入れることはできません。また、イギリスの気候は想像以上に涼しく、日本から長袖の服をあまり持ってきていなかった人が、防寒のために買うこともあったようです。ケンブリッジでの研修の思い出になるだけでなく、デザイン性やカラーバリエーションに富んでいるため、日本に帰ってからも、可愛いパーカーとして着ることができると思います。

交通機関について

■ケンブリッジ⇔ロンドン



【電車】

ケンブリッジ駅からロンドンのキングスクロス駅は 50 分程です。キングスクロス駅は、ハリーポッターのロケ地としても有名です。

『Trainline』というアプリを使うと時間指定で便利に予約することができます！3 人以上でチケットを取ると団体割が適用されてお得になります。他には、イギリス国内の電車を通常の運賃の約 3 分の 2 で乗ることのできる『Railcard』というカードがあります。16 歳から 25 歳のレイルカードは 1 ヶ月£30(購入時 5800 円くらい)です。これもお得ですが、3 人以上でロンドンに行くことの方が多い予定だったら購入する必要はないかなと思います。『Trainline』のインストールがおすすめです！

【コーチ(高速バス)】

私は『FlixBus』を利用しました。ケンブリッジからロンドンのヴィクトリアコーチ駅まで 2 時間 20 分程です。運賃は£4.99 でした！早く予約すればするほどお得になります。『FlixBus』は 1 日の本数があまり多くなく、主に朝や夜の便です。早朝にロンドンまで行きたい場合は、電車の本数が少ないため、バスの利用がお勧めです！

■ロンドン市内の移動

【地下鉄】

ロンドン市内は地下鉄を利用して、楽に移動することができます。ロンドンの地下鉄を利用する際には、タッチ決済に対応しているクレジットカードかオイスターカードがあると良いです。オイスターカードは、チャージ式の IC カードです。

ロンドンの地下鉄の駅構内は電波が全くといって良いほど通じないため、乗る路線や降りる駅は事前に調べてメモしておくと良いと思います。ちなみに、交通手段を調べる際は電車やバスなどを組み合わせて表示してくれる『Google Map』が便利です！



【バス・タクシー】

バスも地下鉄と同様タッチ決済対応のクレジットカードを使って乗ることができます。景色を眺めながら移動することができるため、乗っていてとても楽しいです！タクシーも複数人で乗る場合は、意外とお手頃に乗ることができます。

■長距離移動

週末の旅行で長距離移動をする際は、電車やバス・飛行機など、どれを使うにしても早めに予約すると良いと思います！

トラブル

ケンブリッジは、イギリスの中では比較的治安のいい場所ではありますが、それでもトラブルは起こります。ロンドンやブライトンなど、ケンブリッジを離れた際も注意が必要です。特に後半になるにつれて警戒心が薄れていってトラブルに遭うことがよくあるので、最後まで気を抜かないことが大切です。

今回の留学で実際に会った例…
・ケンブリッジ行きの電車がキャンセルになり、決められた時間までに寮に戻ることができなかった
・ロンドンで携帯のバッテリーがすられる
・コロナが寮で流行る
・ロンドンの橋で詐欺師に声をかけられる…etc

こういった対策をしておく必要のあるトラブルは必ず起きます。行く前からしっかりとトラブル回避のため準備しておきましょう。

【留学前準備】
事前に準備できることもたくさんあります。以下のことは研修前に準備するべきです。
・常備薬、風邪になった時に普段使っている薬の用意
・インターネット環境の準備（ポケット Wi-Fi にするか SIM カードにするかなど。SIM カードを現地で買う場合はどこで買うかを決めておいた方が安心です。）
・現金（チップを払う所はあまりなかったですが、カードを無くした際など時々使う場面がでてくるため準備しておいた方がいいです。）

【留学中】
外出する際だけでなく、日常生活でも注意することが大事です。大学内は基本的には安全ですが、学生は起きたことに対して自己責任なので、しっかりと注意を払う必要があります。
・シャープ先生や PA、寮などの連絡先は必ず持っておくこと
・ケンブリッジを出る際は必ず報告をすること
・大学内でも貴重品は常に持っておくこと（自分の部屋においておけば基本的には問題ない）
・1 人で行動しないこと

きちんと注意さえすれば留学はとても楽しいです！あまり慎重になりすぎずいろんなところに行って楽しんでみてください！！

PA メッセージ

As a PA I really enjoyed meeting all the students and learning from them the differences between Japanese and English law and culture. The programme is a great opportunity to have new experiences in a foreign country, become great friends with the fellow students and PAs on the programme, and become more confident in your English abilities! My favourite memories as a PA are the activities we organise such as visits to the Supreme Court, as well as the more relaxed time we spend together playing table tennis, football, card games, sharing meals and having fun.

I love working on the programme because I get to make friends with students in Japan that I would never have got the chance to meet otherwise. This is a really good opportunity to push yourself to try something new and you will definitely make memories that will stay with you for a long time - I encourage next year's students to try their best ! You can do it!!



担当教員からのメッセージ

Dear Students,

I look forward to welcoming you to our summer programme at Corpus Christi College, Cambridge. This is a place with nearly 700 years of history. As you walk through the same courtyards and halls as famous leaders, lawyers, artists and scientists, you too will become part of the college's living history. You will add your own story to its future, while being inspired by the past.

Here, you won't just study English. You'll need to *use* it to dive deep into the English legal system, engaging with many kinds of challenges. You won't just read and listen: you'll be engaging in discussions with Cambridge students, giving case presentations, visiting iconic legal institutions, asking for career advice from lawyers, and acting in a mock trial. By challenging yourself to take an active role, you'll bring the law to life.

This experience is not only about academic and personal growth, but also about forming friendships and discovering your own path. You and the Cambridge students will inspire each other. You'll also make new lifelong friendships with like-minded Meiji and Ritsumeikan students. You'll share ideas, challenges, and dreams with the people around you, building bonds that will support you long after the summer ends.

When you return to Japan, it will seem like a different place. You will start to question the things that were *atarimae*. You might start to see a different face in the mirror. Future pathways that you never imagined might suddenly seem to open up. The real benefit of study abroad is not a higher TOEIC score: it's getting this new perspective on life. It's the confidence to demand more from yourself and your future.

So I invite you to join us for a summer of learning and self-discovery. Your teachers and the Cambridge students are all waiting to meet you. Perhaps a new 'you' is waiting there too.

James Sharp Programme Director

次年度の参加者に向けて

ケンブリッジ大学コーパス・クリスティ・カレッジ夏期法学研修は、私にとって非常に良い経験でした。この研修を通じて得た最も重要な経験は、様々な価値観を知れたことです。ケンブリッジ、立命館、そして明治の学生たちと共に、現地の人々との出会いがこのプログラムを豊かにしました。講義では、イギリス法や EU 法、国際人権、環境法について学びましたが、それだけでなく、様々な目標を持つ友人との 1 か月の共同生活が非常に刺激的でした。日本では得られない多様性に触れ、現地の方々との会話はとても良い経験でした。英語力に関しては、英語での授業やケンブリッジの学生とのコミュニケーションを通じて成長できました。失敗を恐れず、工夫を重ねながら伝え方を学び、異なる文化に触れる中で生活力も向上しました。何よりも、「行動すること、実際にやってみること」の重要性を痛感しました。緊張や失敗を乗り越え、自ら行動することで成長できたことは、貴重な体験でした。

この研修は、EU 法やイギリス法を学びたいだけでなく、海外に興味のあるすべての人にお勧めできます。ケンブリッジでの学びは非常に有意義であり、明治大学の先生方や事務室職員の方、Jackie 先生、James 先生、PA、研修仲間たちはとても協力的で、親身になってサポートしてくれます。この研修で得られる経験、仲間は大きな財産になります。このプログラムに参加するか迷っている方がいれば、迷わずに参加をお勧めします。

S.M

研修から二月ほどたった今でもケンブリッジに戻りたいと何度も思います。ケンブリッジでの日々は私にとってそれほどまでに充実感や活力にあふれた魅力的なものでした。自身の英語力の向上はもちろんのこと、それ以外に大切なものを多く得ました。日々できることが増えてゆく実感が自信をみなぎらせました。矢のように過ぎ去る 1 か月に必死に食らいつき、一滴の経験すら逃すまいと日々を送っていたのを思い出します。

ケンブリッジ大学での授業は大学の教員によって行われました。講義の内容は難しいものもありましたが、それらはすべて私たちに思考することを求めました。主体性や思考力、コミュニケーション能力が鍛えられました。異なる言語でのこのような活動は私に新しい視点を与えてくれました。たとえ授業内容の理解に自信がなくても PA や先生方が献身的にサポートしてくれるため不安はなかったと思います。寮での生活では大学や諸施設との物理的な距離が近かったため、ほかの学生はもちろん PA や現地の人達との交流を積極的に行うことができました。そのおかげで 1 か月という短い期間であるにもかかわらず、何にも代えがたい人間関係を築くことができました。現地の PA や異なる文化との交流は私に新しい視点をもたらしてくれました。日本に帰った時、自分の成長をよりいっそう実感することができました。ケンブリッジでの経験のおかげで何事にも臆さず挑める余裕が生まれました。

出発する前はこのプログラムが本当に自分のためになるかと不安になることがありましたが、皆さんの想像以上に価値のあるプログラムだと思います。見通しのつかない国際情勢や為替が参加のハードルを上げてしまうかもしれません。本年度もその影響を受ける部分がありました。それを加味しても十二分に価値のある経験を得られます。ぜひ参加することをお勧めします。

D.M

実施概要

・期間
２０２３年8月１６日～9月１１日

・参加人数
２３名

・参加費用
約９７万円

・単位認定
法学部設置科目「Legal Studies Abroad ＡⅠ・Ⅱ」４単位
→法曹コースでは「自由選択科目」、その他のコースでは「コース専門法律科目」の扱い。

応募資格
・本学学部の２～４年生（４月時点）で、法学研修の授業に参加し得る英語力を有する者
・「明治大学夏期短期海外プログラム参加申込誓約書」に合意していること
・「留学基礎講座ＡⅠ・ＡⅡ・ＣⅠ」を２０２３年度に履修するか、または既に履修済みであること

出発から帰国の流れ

応募受付期間	１月１８日～４月３日
選考	４月８日
選考結果発表	４月１０日
第１回オリエンテーション	４月２５日
第２回オリエンテーション	５月３０日
TOEIC S&W テスト	６月１６日～６月１９日
第３回オリエンテーション	６月２４日
第４回オリエンテーション	７月１０日
研修期間	８月１６日～９月１１日
帰国後報告会	９月１９日
TOEIC S&W　テスト	９月２２日～９月２５日

編集後記

この冊子を編集していく中で、ケンブリッジで過ごした日々のさまざまな思い出が、蘇ってきました。自分にとって初めての海外で、はじめは緊張したり、ホームシックになったりしましたが、よい仲間に囲まれ、先生方、PA（プログラムアシスタント）のサポートもあり、充実した日々を過ごすことができました。授業だけでなく、放課後・休日の活動がとても楽しかったからだと思います。もちろん、電車を乗り過ごしたり、コロナになってしまったりとトラブルも絶えませんでした。しかし、仲間と一緒に困難を乗り越えることで、仲がより深まった気がします。

日本に帰ってきてからも、その縁は切れていません。一生の友人を作ることが出来る、そんな研修だったと思います。長いようで短い夏休み、ぜひ新たな一歩を踏み出したい方にはこの研修に参加していただきたいです。

R.T

最後まで報告書をお読みいただき、ありがとうございます。イギリスでの思い出に浸りながら、報告書の編集にあたりました。今でもイギリスで撮った写真や買ったお土産を見返しながら、イギリスでの生活を懐古しています。法学研究の原点ともいえる中世ヨーロッパに設立された世界トップレベルの大学に身を置き、仲間と共に学びを深めた日々は、法学の歴史の重さを感じることができた貴重な経験となりました。

私は、この研修に参加するために1年生の冬から動き始めました。当初は自身の英語力の低さから、面接に合格できるのか、また合格後も、日本語でも難しい法学の内容を英語で理解できるのかなど、次から次へと不安がのしかかりました。研修中、英語でEU法や国際法、環境法、そして人権を学ぶことに何度も苦戦しましたが、先生方やPAの方々のサポートのお陰で、少しずつ理解を深めていくことができました。皆さんフレンドリーで、大変楽しい毎日でした。

1ヶ月という短期間とはいえ、留学を検討するにあたり、思い悩むこともあるかと思います。しかし、異国の地で法学の勉強に励むことができる1ヶ月は、皆さんにとって一生の思い出に残る最高の経験となるでしょう。この報告書を通じて、皆さんが留学という人生における大きな決断をする際に、お役に立てれば幸いです。

H.Y

最後までこの冊子を読んでくださりありがとうございます。冊子を編集しながら改めてケンブリッジで過ごした1ヶ月間のことを思い出し懐かしい気持ちになりました。1ヶ月の海外留学と聞くと、とてもハードルが高いように感じるかもしれません。私も当初は全く想像がつかず、不安な気持ちもありました。しかし、実際に行ってみると、勉強のことだけでなく生活全てにおいて充実した日々を送ることができました。この研修は、挑戦したい気持ちがあれば、十分に楽しめ有意義なものだと思います。私自身、この夏をケンブリッジで過ごして本当に良かったと思っています。この報告書には、研修に関し授業から休日についてまで様々な体験談があります。研修への参加を決めた方や興味を持っている方にとって、この冊子が役立つものであれば幸いです。

R.Y





















発行：明治大学法学部
http://www.meiji.ac.jp/hogaku/cambridge

明治大学
MEIJI UNIVERSITY